Osaka University Knowledge Archive

Title	懐徳堂本「昌平黌書生寮姓名録」の公刊にあたって
Author(s)	梅溪, 昇
Citation	懐徳. 1972, 42, p. 21-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90497
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

懐徳堂本「昌平黌書生寮姓名録」の公刊にあたって

梅溪　昇

このたび關係各位の御了解をえて懐徳堂文庫の「昌平黌書生寮姓名録」（寫本）を全文紹介させて頂くことになったので、簡單に本史料について述べておくことにする。本史料は同文庫の中で、西村天囚先生舊藏書中、主として寫本類を集めた「小天地閣叢書―坤集」に入っている。

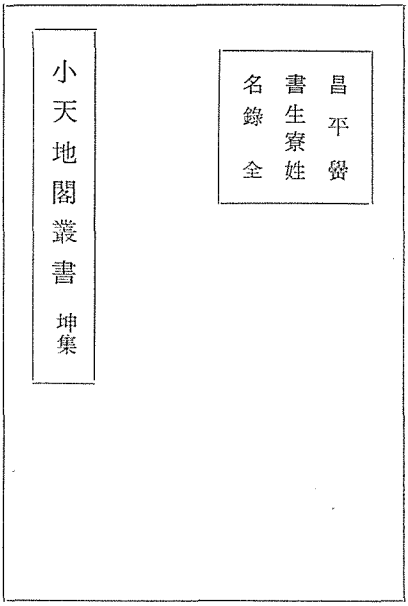
この叢書には、例えば「（皆川）淇園門人簿上・下」（寫本）など貴重な寫本類が收められているが、今回はその中から本史料をえらんで紹介し、學問史ないし地方史研究に役立つようにした。私は年來、江戸時代の多數にのぼる全國諸塾の塾生名簿が集大成されることを期待しているものであるが、同じような關心をもたれる各位が未刊のこの種史料を續々公刊されるよう願う次第である。

本史料は、内容的にいって新出史料ではなく、すでに石川謙博士が、「書生寮姓名簿」という名でその著『日本學校史の研究』（昭和三十五年、小學館發行）において取り上げられている。すなわち、「弘化・慶應期における書生寮の狀況」という項で、その姓名簿を檢討・分析されて、「書生寮へ藩士を入れた藩の數」（第三八表）、「林家塾・學問所書生寮に藩士を遊學させた藩數についての調査」（第三九表）、「書生寮入寮者の經由した儒官門」（第四〇表）を作製さ

れ、示唆にとむ論述をされている。しかし、右の諸表は關東・奥羽以下の地方別、年號別、藩の數にとどまるため、一般研究者のためにはどうしても姓名簿の全内容が必要とされていたのである。石川博士の用いられた姓名簿は、おそらく現在東京大學史料編纂所が所藏する「書生寮姓名簿」（寫本）（岩波『國書總目錄』第四巻、五八四ページ）と思われる。この東大史料本は冒頭に、「書生寮姓名簿弘化丙午以來」とあるほか、本文の字句の上で若干の相異がある。いま史料編纂所が改築工事中のため、両者を十分に比較校合することができないが、沼田次郎史料編纂所長の御教示によると、史料本は本文三五丁、昭和三十四年三月二十八日の購入にかかるが、奥書などもなく、その寫本の出所は不明であるとのことである。

さきに記したように、両者の間に若干字句の異同があるが、それは筆寫のさいの誤りかとも考えられ、原本は同一と思われる。参考のために東大史料本と一部分校合した箇所には〈　〉で注記を施しておいた。

以下、本史料を紹介することにするが、末尾に筆者の作った姓名索引、主人名備考、藩名備考（いずれもアイウエオ順）を付けた。しかしながら姓名のよみの正確はとうてい期しがたく、また各人が屬す主人名・藩名も不分明なところがあって、これらはすべて本史料を利用して下さる研究者各位が今後において訂正・確定されることを願うものである。（昭和四七・八・二八記）



【24×16.5糎】【本文,130丁】

（　）は本史料にある朱筆の訂正または加筆。
「　」はすべて筆者の注記。
＜　＞は東大史料本（一部分のみ）。
姓名の下の漢數字は筆者の付した整理番號。